

点の支援をつなぎ合わせ 「大きな支援の力」が発揮できるネットワークへ

相澤 渉さん(社会福祉協議会地域事業課)



大崎市では、みなし仮設住宅(一般のアパートなど)が多く、「仮設住宅」がなかったことで、健康管理や困り事相談のような、個別の被災者支援の方が先行してきました。そのため、災害公営住宅入居者と地域コミュニティとの関係構築は、今まさに始まったばかりです。

社会福祉協議会では、これまで様々な支援団体や自治組織、専門機関などが、それぞれに点で行ってきた支援を「大きな支援の力」として発揮できるようにつなぎ合わせ、ネットワークを構築する役割を担っていければと考えています。

災害公営住宅入居者も、最終的には地域がよりよくなるために、大崎市民として「新しい力」を発揮してもらえるようになればと願っています。

「出張カフェ」で きっかけづくりの場を提供しています

小玉 仁志さん(ウラバタケ Cafe)



大崎市や町内会と連携し、災害公営住宅の集会所で「出張カフェ」を行っています。いれたてのコーヒーを飲みながら、リラックスした心のハードルが少し下がった雰囲気の中で、入居者や地域住民が抱える課題、困り事、ストレス

などをはき出してもらうための場であり、顔見知りや隣人を得るための「きっかけづくり」の場です。

大崎市のように中心市街地に建つ災害公営住宅は、全国的に珍しく、今、行政、NPO、わたしたち地域事業者がかかわり合いながら進めている、災害公営住宅の皆さんと地域コミュニティをつなぐまちづくりは、全国の先進事例にもなっていくと思います。

まちづくりする側が楽しめるまちづくりをモットーに、楽しみながら地元に貢献していきたいと思っています。

「大崎市に来てよかった」と 思ってもらえるように

NPO 法人おおさき地域創造研究会

NPO 法人おおさき地域創造研究会(代表:白旗成典さん)では、昨年1月から毎月1度の「ほっこりお茶このみ」を開催しています。被災し移住して来た人同士が、気兼ねなく、なんでも話せる場を提供し、たくさん抱えてしまった心の重荷を少しずつ下ろしながら、大崎市に溶けこみ、地域の皆さんと共に歩いていく気持ちになれるよう、丁寧な支援を行っています。

また、不案内な地域を知ってもらえるよう「古川まちなかマップ」を作成し、災害公営住宅周辺の公共機関や病院、スーパーマーケットなども掲載しました。

「大崎市に来てよかった」と思ってもらえるような、あたたかみのある支援を行っています。

▶「ほっこりお茶このみ」では、ものづくりや畑づくりなど、さまざまな事業も行っています。こしは、古川まつりへ出品する「七夕飾り」づくりにチャレンジするそうです



◀「古川まちなかマップ」は、利用者の声を反映させながらよりよいものを目指します。おおさき地域創造研究会で配布していますので、気軽にお問い合わせください

☎ NPO 法人おおさき地域創造研究会 ☎ 25-9956

大崎市民として 明るく前向きに暮らしたい

菊田 智子さん(災害公営住宅入居者)



気仙沼の大島から移住しました。みなし仮設住宅の生活が始まったころから、大崎の皆さんには大変お世話になり、わたしは本当に恵まれたなと感じています。

災害公営住宅への入居当初は、新しい環境に戸惑いもありましたが、地域の皆さんが親身になって交流機会

を設けていただく中で、同じ住宅の人や地域の人たちとも顔見知りになり、少しずつ、地域になじんできたところです。

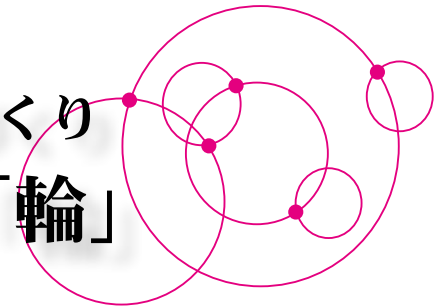
わたし自身もそうですが、皆さん、いろいろと問題は抱えていると思います。でも、せっかく大崎市民になったのだから、明るく前向きに暮らしたいと思いますし、体が元気なうちは、地域の役にも立ちたいと思っています。

地域行事のお誘いがあれば、同じ住宅の仲間も誘って積極的に参加したいです。



▲積極的に避難者交流会などの機会に参加してきた菊田さん(写真右)。大崎市民として楽しく暮らしていくために前向きに歩みを進めています

動き出した震災復興という名のまちづくり つなげよう復興の「話」「和」「輪」



今はどこの町内会も高齢化による人手不足が進み、組織の立て直しが課題になっています。そんな中、わたしたちの町内会に災害公営住宅が建設され、新しい仲間がふえることとなりました。地域の一員としてしっかりと迎え入れ、少しでも不安を取り除いてあげることも町内会の役割のひとつではないかと思っています。



互いに支え合いながら暮らせることが、町内会の活性化につながる

佐藤 英彦さん(古川地域東町行政区長)

今は、入居者の皆さんと地域住民が触れ合えるよう、住宅に併設された集会所を活用して、互いの顔が見えるさまざまな交流機会を設けています。3年ぶりに開催した町内会の新年会にも入居者の皆さんに参加してもらい互いに楽しいひと時を過ごしました。

新しい仲間と、あいさつを交わし、互いに支え合いながら元気に暮らせることが、町内会の活性化にもつながっていくのではないかと考えています。



▲3年ぶりの開催となった町内会主催の新年会。新たな仲間を迎え入れることが、停滞しがちな町内会自身を動き出させるきっかけとなっています